

令和7年度 豊岡光生園 地域連携推進会議 議事録

1. 日時 令和8年3月30日(月) 13:30~15:15

2. 場所 豊岡光生園 会議室

3. 出席者

【構成員】7名

利用者 1名

利用者家族 1名

地域の関係者 1名(区長)

福祉に知見のある方 2名(近隣施設管理者、基幹相談支援センター職員)

市役所職員 2名

【職員】3名

施設長、次長、主任生活支援員

(ア) 会議

① 地域連携推進会議の目的を説明

② 豊岡光生園の紹介

施設入所支援、生活介護(定員40名)

短期入所、日中一時支援(定員10名)

現在入所されている方は39名、平均年齢50.3歳

区分5、6の方がほとんどで、重い障害を持つ方々が生活している。

職員体制

総数49名。施設内は大きな建物の中にグループホームが7棟入っているような(ユニット形式)造りになっており、生活支援員と調理員(世話人)で利用者の生活を支えている。その他に看護職員、栄養士、事務員。

③ 豊岡光生園の現状と課題、職員育成などについてお話する。

利用者の高齢化が進む中で、親亡き後の生活をどう支えていくか。

職員の休憩についての課題なども出席者に説明した。

(イ) 事業所内見学

(ウ) 質疑応答 感想 意見交換

(近隣施設管理者) 私どもの事業所は身体に障害のある利用者が多い為、高齢を迎え介護保険サービスと障害福祉サービスを比べた時に年金の差で障害の方のサービスを選ぶ方が多い。その為、いかに機能を維持していくのかを考えている。

(基幹相談支援センター職員)

職員教育に力を入れていると聞いて、現場の職員たちが頑張っている姿、悩んでいる姿にお会いする機会が多く私たちが何か力になれたらと思っている。

地域福祉に携わる多くの職員が技術をみにつけても業務としては不十分。その方がどう生きていくのか、幸せなのか。

今後何かしらのコラボレーションができればうれしく思う。

(富津市役所職員①)

地域移行に対する考え、休憩の対策、今後打っていく対策について聞きたい。

(回答) ここでの生活はあくまでも通過点であると思っているので、地域移行については前向きに考えている。一方で、保護者の皆さんはここで生活できていることに安心があるという点も大事に考えていきたい

休憩については業務整理をしていく必要があると思う。どうしたら利用者に迷惑をかけずに自分たちも休憩が取れるか時間をかけて考えていきたい。

(富津市役所職員②)

自分が思うように利用者を動かすことが仕事ではなく、導くことが仕事であるという言葉がとても響いた。行政の立場としても難しいことだと感じた。

(区長)

リハビリを担当する方の勤務が見当たらなかった。

(回答) 週1回、訪問介護を入れており、外部に依頼している。

(利用者家族)

職員さんには元気で笑顔で接してほしいので、健康のためにも休憩は大切にしてほしい。とはいっても「お母さんここから休憩だからね」と言って子どもを放置するなんてできないと感じるのでよくわかる。

(エ) 地域交流について

ここ数年の実績は、数回しかない。

ごみゼロ運動、地区の小学生とお年寄りとの輪投げ大会など。

今後について、地域連携推進会議の開催・地域行事への参加・地域との情報交換などこちらからも声をかけていきたい。

(オ) 地域行事についての情報交換

コロナが流行してから、行事参加できない形になってきている。

①地域行事で、利用者や職員が参加できる行事はあるか。

(区長 回答)

草刈り作業や枝切作業、山側から谷川にある排水溝の土砂の取り除き作業。

人手の問題もあり、コロナ以降開催しなくなった行事もある。

②足を延ばせば参加できる行事はあるか。

(基幹相談支援センター職員 回答)

東京湾観音で「節分祭」という行事がある。参加者も多く利用者の参加は工夫がかなり必要だが、間口は広い。

金谷の「おらがいち」や小久保にある中央公民館でフリーマーケットを開催しているので試しに行ってみるのはどうか。

富津市の福祉教育プログラムで小学校での車いす体験やデフサッカー体験など行っている。学校でも福祉って何だろうというテーマを熱心に取り組んでいる先生方もいる。

※次回開催は11月6日(金)を予定。